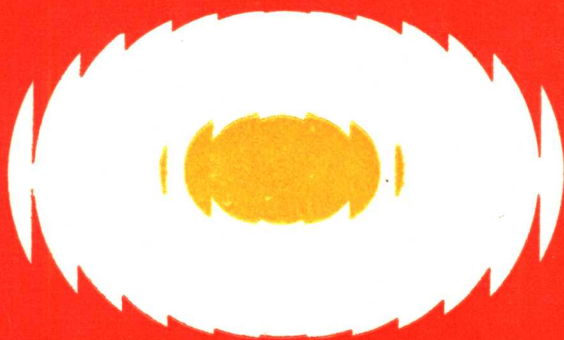


日语综合新辞典

(百科 和英 汉和 兼用)



旺文社
世界图书出版公司

日语综合新辞典

(附英译文)

百科 和英 汉和 兼用

旺文社编

旺文社

世界图书出版公司

北京·广州·上海·西安

英訳つき 国語総合新辞典

© 旺文社 1992

日语综合新辞典 (附英译文)

旺文社 编

旺文社出版

世界图书出版公司北京公司重印

北京朝阳门内大街 137 号

北京昌平百善印刷厂印刷

新华书店北京发行所发行 各地新华书店经售

*

1996 年 2 月第一版 开本: 787×1092 1/32

1996 年 2 月第一次印刷 印张: 48.125

印数: 0001-5000 字数: 410 万字

ISBN: 7-5062-2856-4/H·175

著作权合同登记图字: 01-95-642

定价: 59.00 元

本书已由世界图书出版公司北京公司向日本株式会社旺文社购得重印权,
在中国大陆发行

はじめに

最近の通信技術の発達には目を見張るものがある。テレビ・新聞等を通じ、われわれは茶の間に居て、刻々と変化する世界や国内の諸情勢・世相をつぶさに知ることができる。しかもそれは遠隔・近距離を問わずストレートかつビビッドに伝わってくる。その流入・移り変わりの激しさは、時にわれわれを驚かせる。こうした洪水のような情報の氾濫は、また、ことばの氾濫でもある。一方的に飛びこんでくる見慣れないことば、聞き慣れないことばを前にすると、われわれはしばしば戸惑わざるをえない。この傾向は近年とみに著しい。

この辞典は、そうしたとき、手っ取りばやく活用できるようにと編まれたものである。したがって、収録語は多岐に及んでいる。一般の漢語・和語のほかに、新語・時事語・カタカナ語、各種専門分野の百科語、東洋・西洋にわたる地名・人名・書名等の固有名詞、故事・ことわざ・慣用句・四字熟語、古語等々である。その上、常用漢字・人名用漢字もすべて親字として挙げてある。さらに、ある程度和英辞典としても使えるよう、それぞれの語義解説の後に英訳まで付けている。まさにマルチ辞典と言っても過言ではない。収録語数83,000語というのも、この規模の辞典としては最大である。これも先に述べた今の世の情報の多様化を踏まえた結果である。言ってみれば、現代という時代は必然的にこうした内容の辞典を要求しているということにもなる。本辞典は、1978年刊行以来ご好評をいただいていた「新総合国語辞典」をベースとして編んだものである。しかし、今回新たに現代生活に必要なことば約2,000語を加えるなど、内容をいちだんと充実させた。ご監修をいただいた三好行雄先生・J. B. ハリス先生をはじめ多くの先生方のご協力により、これからの時代の要求にじゅうぶんこたえ得るものになったと自負している。

本辞典が職場・家庭・学校等あらゆる場所において幅広く活用され、読者の方々のことばのよき道標となることを切に願ってやまない次第である。

1990年 初夏

旺文社

凡 例

1. 見出し語の種類

現代国語はもちろん、日常生活や実務生活に必要な外来語、百科語、新語をはじめ、中学生以上の学習にも役立つ基本的古語、固有名詞（人名・地名・作品名など）、社会科学用語、自然科学用語、慣用句、ことわざ、故事成語など8万3,000語を収めた。

2. 見出し語の示し方

(1) 原則として、日本語は現代かなづかいによって、ひらがなで、外来語・外国語（中国・朝鮮半島関係の地名を含む）は片かなで、それぞれ太字で示した。

(2) 古語は、原則として歴史的かなづかいによった。

〔例〕 あへしら・ふ 勢（他四）《古》 ①…………… ②……………

③……………

(3) 見出し語は外来語・外国語を含めて、原則として文部省の示した基準によったが、外来語・外国語の「ヴァ・ヴィ・ヴ・ヴェ・ヴォ」で発音される語についてはすべて「バ・ビ・ブ・ベ・ボ」で示した。

(4) 活用語は、ふつう終止形で示したが、語幹と語尾を「・」で区別した。ただし形容動詞は語幹だけを示した。

〔例〕 あがる【上がる】 あかるい【明るい】 あざやか【鮮やか】

(5) 副詞で、「と」あるいは「に」がついても、つかなくても使われるものはつぎのように示した。

〔例〕 かるがる(と)【輕輕(と)】

(6) 3音節以上の語に、他の語がついて一語をなしている派生語は、便宜上見出し語の語釈の後（慣用語句・ことわざがある場合は、その後）に追い込んで示した。見出し語と重複する部分は省略して「——」および「—」で表すほかは、すべてははじめの見出し語に準じた。しかし、この種の派生語が多すぎる場合は、検索の便をはかり、すべて独立見出しとした。

ただし、「きゃ・きゅ・きょ」「しゃ・しゅ・しょ」などの拗音は2字で1音節とみなし、長音「ー」は1音節とはみなさない。

〔例〕 いっほん【一本】①…………… ②……………

——ぎ【一気】①…………… ②……………

——だち【一立ち】(名・自スル)

(7) 見出し語に、他の語句がついてできた慣用語句・ことわざ・故事成語などは、その見出し語の語釈の後に追い込んで、見出し語と重複する部分を「——」で表して、ゴシック活字で示した。

〔例〕 いし【石】①…………… ②……………

——が流れて木の葉が沈む……………

げん【[△]舷】…………… ——相摩す……………

- (8) 接頭語は見出し語の後に「一」を、接尾語は見出し語の前に「一」をつけた。

〔例〕 あい一【相一】⁷⁶ ——あたり【一当たり・一当り】

3. 一字の漢字について

- (1) 常用漢字(1,945字)・人名用漢字(284字)、および日常生活において使われる度数の多いと思われる漢字(約270字)、総数約2,500字を、すべての同音訓の語に優先させて一括収録し、字義を解説した。
- (2) 一字の漢字は、字音を見出しとし、「常用漢字表」に、二つ以上の字音が掲げられているものは、より一般的と思われる字音のほうに字義を掲げ、他の音は必要に応じて見出しのみを掲げて、字義は他の見出しを参照するよう、⇒印で示した。
- (3) 字体は、常用漢字については「常用漢字表」にある新旧字体を、表外の漢字については、旧字体のまま示した。ただし、人名用漢字については、それぞれの字体を以下の要領で示した。

〔例〕 き【人龜・[△]龜】→「常用漢字表」外の漢字だが、前者は人名用漢字として用いることのできる字種・字体。

こう【人亘・[△]亘】→「常用漢字表」外の漢字だが、前者は前項に同じ。後者は人名用漢字としても認められている旧字体。

- (4) 音訓については、「常用漢字表」に掲げてある音訓は太字によって示し、同漢字表には掲げられてはいないが、日常よく使われると思われる音訓は細字で示した。常用漢字表以外の漢字の音訓はすべて細字で示した。また、字音には歴史的かなづかいを()内に掲げた。
- (5) 熟語を構成する成分としての《字義》を掲げ、用例を「 」内に簡潔に示した。
- (6) 一字の漢字の語としての意味は、《字義》のあとに▶を付して語釈を示した。

4. 見出し語の配列

見出し語は、一字の漢字(常用漢字・人名用漢字および日常よく使われる常用漢字外の漢字)を一括して、いちばんはじめに収め、あとはすべて五十音順にしたがったほか、次の順序によって配列した。

- (1) 清音・濁音・半濁音の順

〔例〕 ほんぶ【本部】

ほんぶ【本譜】

ほんぶ【凡夫】

ポンプ [♫ pump]

- (2) 促音・拗音を前に、直音を後においた。

〔例〕 めっき【[△]鍍[△]金・減[△]金】 きょう【今日】
めつき【目付き】 きよう【器用】

- (3) 同じ音の語が続く場合は、見出し語を表す1字めの漢字の画数の少ない順においたほか、その語の品詞と種類別によってつぎの順に配列した。

接頭語・接尾語・名詞・代名詞・自動詞・他動詞・補助動詞・形容詞・形容動詞・連体詞・副詞・接統詞・感動詞・助詞・助動詞・連語

- (4) 外来語・外国語の長音「ー」は、順序の上では無視して配列した。

〔例〕「アート」は「アト」として配列

- (5) 外国人名（中国・朝鮮半島を除く）は姓でひくようにおき、フルネームを原語で〔 〕の中に示した。日本・中国・朝鮮半島の人名は姓名でひくようにおいた。

〔例〕 トーマス=エジソン → エジソン
そうせき（漱石）→ なつめそうせき（夏目漱石）

5. 見出し語の書き表し方

- (1) 見出し語の書き表し方を、日本語は【 〕の中に、外来語・外国語は〔 〕の中に示した。かなは、古語を除いて、原則として、現代かなづかいによって示した。

- (2) 常用漢字の字体は、「常用漢字表」の字体にしたがい、送りがなは、昭和48年6月の内閣告示「送り仮名の付け方」にしたがった。なお、「送り仮名の付け方」の中の許容（送りがなをはぶくことのできる語）による用例、および同種のものも同じ【 〕内に併記した。

〔例〕 うかぶ【浮かぶ・浮ぶ】 らくがき【落書き・落書】
のりかえ【乗り換え・乗(り)換(え)】→ 乗り換え・乗換え・乗換
うりだし【売り出し・売(り)出(し)】→ 売り出し・売出し・売出
なお、許容によって送ってもよい語についても併記した。

〔例〕 おこなう【行(う)・行(な)う】

- (3) 【 〕の中の漢字につぎの記号をつけて、漢字の種別を示した。ただし、固有名詞・中国語などには、この記号を省略した。

- △ 常用漢字表にない字
- ◇ 常用漢字表にあるが、その音または訓が掲げられていない読み
- || 従来、あて字と考えられている字
- 人 一字の漢字だけにつけて、その字が人名用漢字であることを示す。

- (4) いわゆる「同音の漢字による書き換え」のできるものには、常用漢字による書きかえ字とともに、旧来使われている常用漢字表外の字をも併記した。

〔例〕 じょじょう【叙情・[△]抒情】 はいとく【背徳・[△]悖徳】

- (5) 《字義》を解説した一字漢字のうちで、「常用漢字表」に新旧両字体がある

漢字については両字体を掲げ、なお、それに準ずる一部の常用漢字にも旧字体を掲げて字体のつながりを示した。

〔例〕 えい【営・[△]營】 えき【駅・[△]驛】

おう【翁・[△]翁】 さん【産・[△]産】

- (6) 見出し語の漢字が二つ以上通用している場合には、最もふつうに使われているものを先にだして併記した。

〔例〕 すじょう【素性・素姓】 ぼうちょう【膨脹・膨張】

- (7) [] の中に示した外来語・外国語の原語つづりには、該当する国の略語（「略語・記号一覧」参照）をつけて示した。ただし、英語および固有名詞には省略した。

〔例〕 ア・ラ・カルト [フ à la carte] アルバイト [ド Arbeit]

- (8) 英語のつづりで英米両式がある場合は、原則として米式で示した。また、いわゆる和製英語は、和製英語である略語を付けてイタリック体（斜体）で示した。

〔例〕 カラー [color] ナイター [和 nighter]

6. 歴史的かなづかい

【 】 の後に歴史的かなづかいを、片かなで示し、見出しが歴史的かなづかいで表された古語には現代かなづかいをひらがなで示した。ただし、見出しのかなづかいと合致する部分は「一」をつけて省略した。

〔例〕 あいちょう【哀調】[㊦] いひおこす【言ひおこす】[㊧]

7. 品詞および活用

見出し語には、品詞および活用の形を（自下一）、（形）などの略語で示した。（「略語・記号一覧」参照）。ただし、名詞だけのものには、その略語を省略した。

なお、品詞分類、活用の種類その他の文法事項のうち、とくに注意しなければならないものはつぎのとおりである。

- (1) 名詞のうち、代名詞は（代）とし、助数詞の多くは接尾語として（接尾）とするした。
- (2) 普通名詞の中で、動詞のサ変および形容動詞の語幹となるものについては品詞を併記し、その活用語尾の基本形を示した。

〔例〕 えとく【会得】[㊦]（名・他スル）

おんわ【溫和・穩和】[㊦]（名・形動ダ）

（名・他スル）は、名詞の用法のほかに、語尾「スル」をつければ、サ変変格活用の他動詞として使え、（名・形動ダ）は、名詞の用法のほかに、語尾「ダ・ナ・ニ」などをつければ形容動詞として使えることばであることを示す。

- (3) 動詞は、自動詞・他動詞・補助動詞にわけて、それぞれの略語を示した。

(4) 助詞は、格助詞・接続助詞・係助詞・副助詞・終助詞・間投助詞にわけ、それぞれの略語を示した。

(5) (トータル)の略語は、文語では、いわゆる「タリ活用」といわれるもので、その見出し語に「と」をつければ副詞に、「たる」をつければ連体詞になることを示した。語釈の最後に ㊦(形動タリ)を補った。

【例】 どうどう【堂堂】々々(トータル) ①…………… ②……………

㊦(形動タリ)

(6) 二つ以上の語が合わさってきた複合語のうち、一語意識のうすいもの、句などは(連語)として扱った。

(7) 他の語に助動詞がついてできた、いわゆる活用連語も、(連語)と示した。

【例】 うか・せる【浮かせる】(連語) ①…………… ②……………

㊦ うかす(下一)

8. 語釈・解説および用例について

(1) 古語・俗語・方言ならびに枕詞(せきご)については、品詞のつぎに、それぞれ《古》《俗》《方》《枕》のように略語をつけて明示した。

(2) 百科語については、【動】【植】【法】【文】などの略語(「略語・記号一覧」参照)で、それぞれの属する部門を明示した。

(3) 語釈・解説は正確・平易を基本とし、原則として、「現代かなづかい」、「送り仮名の付け方」の本則、「常用漢字表」の範囲内で表記し、やむをえず「常用漢字表」以外の漢字・音訓を用いる場合は、できる限りルビをつけて読みやすくした。

(4) 一つの見出し語に二つ以上の意味があるときは、①②③…の数字を用いて分けた。また品詞が異なるとき、および動詞で自動詞・他動詞・補助動詞に分かれる場合は、㊦㊧㊨…の数字を用いて分けた。慣用句・故事成語などの意味が異なる場合は④⑤⑥…をもって分けた。

(5) 語釈の簡潔化をはかるため、場合によってはつぎのような置き換えによる記述、ならびに省略した記述方法を用いた。

【例】 ともどもに-相談(打ち合わせ)をすること → ともどもに相談をすること、ともどもに打ち合わせをすること

恨み(を返すべき相手) → 恨み。恨みを返すべき相手

(6) 語釈・解説にあたっては、できるだけ補足的説明を()で囲んで加えた。()は必要に応じて随所に用いたが、とくに(「……」の音便)、(相手の攻撃や追及を)など補足するときは語釈の最初に示した。また、(「……」ともいう)(「……」の誤り)などの解説は、語釈が一つのときはそのまま()を用いて、二つ以上のときは、㊦を用いて、それぞれ語釈の後に示した。

(7) 同意語はそれぞれの語釈の最後に入れ、反対語・対応語はそれぞれの語釈の後に ↔ をもって示した。ただし、語釈が①②③…と二つ以上あって、その語釈の全部に通用する場合は、()をもって示した。

〔例〕 あたらしい【新しい】(形) ① …………… ② ……………

③ …………… 《↔古い》

- (8) 意味の理解をさらに深めるため、必要に応じて用例を語釈の英語の後に付け加えた。用例中の見出し語に相当する部分は「一」を用い、見出し語を活用させて用例を示した場合は語幹を「一」で、語尾は「・」で区切って表した。

〔例〕 い・きる【生きる】(自上一) ① …………… ② …………… 「一・きた金の使い方」《↔死ぬ》

9. 英語訳について

- (1) 語釈・解説とともに、本辞典の最大特長の一つである英語訳を収めたが、英語訳は、原則として「一義一訳」語とし、簡潔を旨とした。ただし、古語および対応する英語がない語、ならびに、日本語と英語のニュアンスの相違から、1語、2語の英語ではかえって誤訳のおそれがある語などには、しいて英語訳をつけなかった。
- (2) 英語訳は、米式のつづりを優先させたが、とくに表現を異にするものについては、両者を併記した。

〔例〕 ろうどうくみあい【労働組合】^{ロウドウクミアイ} …………… a labor union (米); a trade union (英)

- (3) 見出し語の品詞にこだわらず、活用本位の訳語を示し、単語には（とくに誤りやすい場合には句にも）必要に応じて品詞（句の場合には品詞的用法・機能）の指示をした。

〔例〕 ときわ【^{トキワ}常磐】^{トキワ} …………… *adj.* everlasting

- (4) 形容動詞・連体詞には、対応する英語として形容詞の語（句）を与え、訳語がそれ以外の品詞にわたる場合には、明らかにわかるものを除いて品詞の指示をした。
- (5) 見出し語が和製英語の場合には、相当する正しい英語を可能な限り語釈・解説の後に示した。

〔例〕 ナイター [和 *nighter*] …………… *night game*

- (6) 文学・音楽などの作品名は、英米のものに限り原名をのせた。
- (7) ローマ字は訓令式によった。ただし、英米人に親しまれている表記で訓令式と異なるもの (*judo*, *geisha* など) には、訓令式のつづりをも () の中に入れて掲げた。
- (8) 英語訳中の () は、その中の語がその直前の語句とかわりうることを示し、[] は、その中の語句が省略できることを示した。[] はまた、代表語の a person (主語以外の人), a thing (物) などを囲んだ。これらは実際の文中では具体的な語句になるものである。

〔例〕 a tone (shade) of color → a tone of color; a shade of color
[woven] fabric → woven fabric; fabric
rob [a person] of → たとえば rob [him] of

略語・記号一覧

<漢字記号>

- △ 常用漢字表にない漢字
◇ 常用漢字表にある漢字
で、その音または訓が
掲げられていない読み
|| あて字と考えられる字
人 人名用漢字

<品詞・活用>

- (接頭) 接頭語
(接尾) 接尾語
(名) 名詞
(代) 代名詞
(自) 自動詞
(他) 他動詞
(補助) 補助動詞
(形) 形容詞
(形動) 形容動詞
(連体) 連体詞
(副) 副詞
(感) 感動詞
(格助) 格助詞
(接助) 接続助詞
(係助) 係助詞
(副助) 副助詞
(終助) 終助詞
(間助) 間投助詞
(助動) 助動詞
(連語) 連語
(五) 口語動詞の五段活用
(四) 文語動詞の四段活用
(上一) 上一段活用
(上二) 上二段活用
(下一) 下一段活用
(下二) 下二段活用
(カ) カ行変格活用
(サ) サ行変格活用
(ナ) ナ行変格活用
(ラ) ラ行変格活用
(スル) 「スル」をつけて
サ行変格活用
(ダ) 口語形容動詞の活用
(トータル) 「と」がついて
副詞に、「たる」がつ
いて連体詞になるも
の

- (ク) 文語形容詞のク活用
(シク) 文語形容詞のシク
活用
(タリ) 文語形容動詞のタ
リ活用
(ナリ) 文語形容動詞のナ
リ活用

<英文品詞>

- n.* …名詞
pron. …代名詞
adj. …形容詞
adv. …副詞
v. …動詞
prep. …前置詞
conj. …接続詞

<外 来 語>

- ア……アラビア語
イ……イタリア語
英……英語
オ……オランダ語
ギ……古典ギリシア語
サ……サンスクリット
ス……スペイン語
中……中国語
朝……朝鮮語
ド……ドイツ語
フ……フランス語
ヘ……ヘブライ語
ポ……ポルトガル語
ラ……ラテン語
ロ……ロシア語
和……和製英語

<言 語>

- 《古》…古語
《俗》…俗語
《方》…方言
《枕》…まくらことば

<百科部門>

- 【医】病氣・医薬
【演】演劇・映画
【音】音楽
【化】化学関係
【キ】キリスト教
【気】気象
【経】経済・商取引

- 【建】建築
【鉱】鉱物
【史】歴史・考古学
【宗】仏教・キリスト教以
外の宗教
【植】植物名
【心】心理学
【人】人名
【ス】スポーツ全般
【数】数学
【政】政治・政治学
【生】生理・生物関係
【地】地名・地理関係
【地質】地質関係
【哲】哲学
【天】天文
【動】動物名
【農】農業・林業
【美】美術
【服】服飾・和洋裁
【仏】仏教
【文】文学・文学作品名
【文法】文法
【法】法律
【理】物理関係

<記 号>

- B. C. ……西暦紀元前
A. D. ……西暦紀元後
km ……キロメートル
km² ……平方キロメートル
m ……メートル
cm ……センチメートル
mm ……ミリメートル
g ……グラム
kg ……キログラム
l ……リットル
kl ……キロリットル
°C ……セ氏温度
％ ……パーセント

<そ の 他>

- ↔ 反対語・対応語
⇒ 次の見出し語を参照す
る
《 》 語釈が【】…、①②
…のすべてにかかる
同意語・反対語・対
応語を囲む

あ

母音の一つ、五十音図「あ行」の第1音、いろは歌の36番めの仮名、「あ」は「安」の草体。「ア」は「阿」の偏(こ)

あ【亜・亞】[ア・つく]《字義》「次ぐ」「準じる」の意 sub-; second 「亜流・亜目」▷【接頭】① つぎの、下級の、次位の sub- ②【化】酸化物に含まれる酸素の割合が一段少ないこと。たとえば硫酸 H₂SO₄ に対し H₂SO₃ を亜硫酸という 【地】「アジア(亜細亜)・アルゼンチン(亜爾蘭丁)」の略

あ【へ阿】[ア・くま・おもねる]《字義》① おか a hill ② くま、まがりかど a corner ③ のき the eaves 「四阿(あ)」 ④ おもねる、へつらう flatter 「阿諛(あ)」 ⑤ 人を呼ぶのに親しんでつける語「阿父・阿母」▷【地】「アフリカ(阿弗利加)」の略

あ【ア】[ア・おし]《字義》① 口のきけない人、おし a dumb [person] 「聾(あ)」 ② 驚きのあまり声が出ないこと「唖然」 ③ からのびく声 caw

あ【我・吾】[代]《古》わたくし、われ、自分

あ【阿】なほりにくい病氣 a chronic disease

ああ【副】あのように、そんなに like that; [in] that way 「一なる前に」

ああ【嗚呼】(感)深く感じて出す声、喜び・悲しみ・驚きなどを表す声 Oh; Alas; Ah

あい【哀】[ア・あわれ・あわれむ・かなしい]《字義》① 悲しい、悲しむ sad; sorrow 「悲哀・哀愁」 ② かわいそうに思う、ふびんに思う take (have) pity 「哀憐(あ)」 ③ 悲しみ sadness; grief ④ かわいそうなこと ⑤ あわれまじいこと pitifulness 「哀願」

あい【埃】[ア・はこり]《字義》① ちり・ごみ、ほこり dust 「塵(ちり埃)」 ② 世俗、俗事 worldly custom

あい【愛】[ア・いつくしみ・めてる・おしむ]《字義》① ひとつくしみこと(心)、かわいがること(心) love 「愛情・慈愛・母性愛」 ② 男女が相思慕い合うこと(心) tender passion 「恋愛」 ③ 心がひかれること「愛唱」 ④ 他のもへの深いあたたかな心 love ▷① ひとつくしみかわいがること、また、その心 ② 男女が慕い合う心 ③ 物事に打ち込む心 ④ 個人の感情をこえた深いあたたかい心「人類」 ⑤ 【キ】神が人類に幸福を与えること divine love

あい【相】① づ(接頭) ① お互いに、ともに co-; inter- ② 動詞の語調を整えるために添える語「一成る」

あい【間】⁷⁴ ① あいだ、すきま a gap ② 「あい狂言」の略 an interlude

あい【藍】⁷⁴ ①【植】タデ科の一年生草本、葉はだ円形で互生し、秋には紅花をつける。葉から染料をとる an indigo-plant ② あいからとった染料、現在は工業的に合成される indigo ③ 濃い青色、あいい色 indigo (deep) blue 青は——より出でて藍より青し【荷子】弟子が師に、子が親にまさることのたとえ →しゅうつらん

あい【瑞々】(ト・タル) おだやかなさま、人の心がやわらうちとけるさま peaceful 「和気一」図(形動タリ)

あい【傘】[相合・傘] ⁷⁴ ① 1本のかさを男女ふたりでさすこと、相傘 under the same umbrella

アイ・アール【I R】[理] information retrieval の略、情報検索、コンピューターに連結した外部記憶

装置にたくわえられたデータを、必要に応じて引き出すシステム

アイ・アール・ビー・エム【I R B M】intermediate range ballistic missile の略、中距離弾道弾

アイアン【iron】① 鉄 ②【ス】ゴルフ用具で、球を打つ部分が鉄製のクラブ →ヘッド

あいにく【愛育】(名・他スル)かわいがって育てること、たいせつに育てること bring up with; tender care あいれなない【相】容れない ⁷⁴ ① (連語)お互い認め合わない、いっしょに成り立たない adj. contradictory

あいろ【藍色】⁷⁴ ① あいで染めた色、濃い青色、あいい indigo (deep) blue

あいいん【合い印・合印】⁷⁴ 帳簿・書類などを調べるとき双方が合致したるしにおす印 a counter stamp

あいいん【愛飲】(名・他スル)好んでのむこと habitual drinking

あいうち【相打ち・相撃ち・相討ち】⁷⁴ ① 同時にうち合うこと ② 剣道などで、ふたり同時にうち合うこと simultaneous exchange of blows ③ ひとりの敵をふたり以上で討つこと

アイ・エム・エフ【I M F】International Monetary Fund の略、国際通貨基金、為替(か)の安定、平価切り下げ競争の防止などを目的に設けた国際的常設機構

アイ・エル・オー【I L O】International Labor Organization の略、国際労働機関、労働者の権利を擁護(きん)し、生活の向上をはかるための国際連合の専門機関の一

あいえん【合い縁・合縁】⁷⁴ 互いによく和合する縁 karma relation —きえん【合縁奇縁・合縁機縁】⁷⁴ 人と人との間が和合するものしいもの、みなふしぎな縁によるものであるということ karmic relations 「ual smoker」

あいえんか【愛煙家】たばこを好んで吸う人 habit- 「あいおい【相生い・相生】⁷⁴ ① いっしょに成長すること、「相老い」に通って男女の長い契(けり)になぞらえる ② 同じ根元から幹が2本伸びること twin growth

あいおい【相老い・相老】⁷⁴ 夫婦がともに長生きすること

アイ・オー・シー【I O C】International Olympic Committee の略、国際オリンピック委員会

あいおん【哀音】悲しげな音(声) a mournful sound (voice) 「an elegy」

あいか【哀歌】悲しい心情をうたった詩歌、エレジー アイガー【Eiger】【地】スイス中央部にある山で、高さ3,970m。エングラウ、メンヒとともにアルプス三山として名高い、その北壁は1,800mの大絶壁で最も登攀(と)困難なところとして有名

あいかず【合い・合機】⁷⁴ 一つのわざのほか、その鏡(が)に合う他のわざ a duplicate key

あいかた【相方・合方】⁷⁴ ① 相手 a partner ② 芝居で、役者のせりふの間にいる三味線 ③ 能のうたいの囃子方(は) ④ 客を相手とする遊女 a prostitute

アイ・カメラ【eye camera】人間の視線の動きを記

録する装置。心理学の実験や、人間工学の分野などに利用される

あいがも【合・鴨・鴨・鴨】^ニ ①【動】ガソリノ科の水鳥で、「あおくびあひ」と「まがも」の雑種 a cross-breed of the duck ② 鳥屋で、あひるの肉 duck meat

あいかわらず【相変わらず・相変らず】^ニ ①(副) 変わることなく、いつもと同じに as usual

あいかん【哀感】悲しい感じ a feeling of sorrow
あいかん【哀秋】^ニ 悲しみと喜び sorrow and pleasure

あいがん【哀願】^ニ (名・自スル) 情に訴えて、請い願うこと。嘆き悲しんで頼みこむこと、哀訴 supplication 「てあふこと・fondling」

あいがん【愛玩】^ニ (名・他スル) かわいがってもい

あいき【愛機】日ごろ愛用している飛行機・写真機など one's airplane; one's camera

あいぎ【合・着・合・着】^ニ ① 上着と下着の間に着る衣服 ② 春・秋に着る衣服、あいふく a spring (an autumn) wear

あいきどう【合・気道】^ニ 【ス】武道の一種。会津藩(注) (今の福島県)に伝わった大東流柔術から出たもので、護身術や健康法としても知られる aikido

あいぎょう【愛敬】^ニ (古) ① 顔つきの愛らしいこと ② 思いやりがあってやさしいこと —づ・く

【一付く】(自四) (古) 顔つきに愛らしさがある。魅力的である

あいきやく【相客】^ニ 同席または同宿の客 a fellow

アイキャッチャー [eye-catcher] (もとは美しいもの、人目をひくもの、の意) 企業やその製品のイメージを印象づけるために、広告の中で用いられる絵や写真。特定の動物や植物をくり返し使うことにより、特定の会社や製品を連想させるようになる

アイ・キュー [I Q] intelligence quotient の略。知能指数。知能検査による精神年齢を生活年齢で割り、100 倍した数値で示すもの

あいきょう【愛敬・愛敬】^ニ ① にこやかに愛らしいこと charm ② あいそ・おせじなどのよいこと、愛想 sociability

あいきょうげん【愛狂言】^ニ 能と能の間に、狂言師が演じる狂言。あい・能あい an interlude

あいきょうしん【愛郷心】^ニ ① 自分の郷土を愛する心 the love of one's native place

あいぎん【愛吟】(名・他スル) 好きな詩歌を吟じること、またその詩歌 [chanting] one's favorite poems

あいぐさ【合・釘】^ニ 両端のとがったぐさ。板と板とをつなげるときに使う。合わせぐさ a double-pointed nail

あいくち【合口】^ニ ① 物と物との合わせ目 a joint ② 話のよく合う人 a good companion ③ つばのな短刀、よころろ刀、匕首(注) a dagger

あいくるしい【愛くるしい】(形) たいそうかわいしい。なほたは愛らしい charming あいくるしい(形シク)

あいぐんじょうやく【愛護条約】^ニ ① 1858 年愛護で締結されたロシア・清(注)国間の条約。ロシアはアムール川(黒龍江)左岸を奪いウスリー江以東を共同管理として領土を拡張した the Aigun Treaty

あいけい【愛敬】(名・他スル) 愛しうやまうこと reverence

あいけん【愛犬】① かわいがっている犬 one's pet dog ② 犬をかわいがること「一家」 [game]

あいこ【楯子】^ニ 互いに勝ち負けのないこと an even

あいこ【愛顧】(名・他スル) なさけをかけること、引き立てること patronage

あいご【愛護】(名・他スル) かわいがって保護すること、たいせつに守ること protection

あいこう【愛好】^ニ (名・他スル) 愛し好むこと relish

あいごう【哀号】^ニ (名・自スル) ① 悲しうって泣き叫ぶこと(声) a moan ② 中国や朝鮮などで、葬式のときにそろって泣き叫ぶこと(声)

あいこく【愛国】自分の国を愛すること the love of one's country 「一心」

あいこくしゅ【愛国社】^ニ 1875(明治8)年、板垣退助らの立憲社を中心に各地の自由民権政社が集まって結成した最初の全国政治結社

あいことば【合言葉・合詞】^ニ ① あらかじめ打ち合わせておいて合図に用いることば a watchword ② 仲間うちだけに通用することば

あいごま【愛・駒】^ニ 将棋で防ぎにおくこま

あいさい【愛妻】① かわいがっている妻 one's beloved wife ② 妻をかわいがること the love for one's wife

あいさつ【挨拶】(名・自スル) ① 親愛の意を表す社交的なことば compliments ② おじま。応対 a greeting ③ 返事。うけこたえ an answer ④ 儀式・会合などの席でのべることば an address ⑤ 手紙の往復応答のことば

あいし【哀史】あわれな歴史、かなしい物語 a tragic history; a sad story 「an elegy」

あいし【哀詩】悲しい心情を表した詩、あわれな詩

あいし【愛紙】^ニ 物と物との間にはさま紙、印刷物の間に入れてよれを防ぐ紙や、これらものを重ねるときに用いる紙など padding paper

アイシー [IC] 【理】 integrated circuit の略。集積回路 → 付録 IC 「beloved child」

あいじ【愛児】かわい自分の子ども、いとご one's

アイシェード [eyeshade] 光線よけのまぶさし

あいじつ【愛日】① 冬の日 a winter day ② 時日を惜しんでばげむこと hard work ③ 孝心の深いこと piety

アイシー・ビー・エム [ICBM] intercontinental ballistic missile の略。大陸間弾道弾。核弾頭を装置し、ロケットまたはジェット推進によって約 1 万 km の距離を超音速で飛ぶ戦略用長距離ミサイル

あいじやく【愛着】^ニ (名・自スル) ①【仏】欲望にとらわれて思ひきれないこと ② → あいちやく

アイ・シャドウ [eye shadow] 目にも陰影をつけるためにまぶたに塗る青・灰色などの化粧品

あいしゅう【哀愁】^ニ 悲しみうれること、もの悲しいこと sorrow; sadness

あいしゅ【愛書】① 本が好きなこと the love of books 「一家」 ② 好きな本 one's favorite books

あいしゅう【相性・合性・合性】^ニ ① 生年月日を陰陽五行説(注)にあてはめた場合、男女・友人の性(注)がうまく合うこと compatibility of the stars ② 性質が互いに合うこと

あいしゅう【哀傷】^ニ 悲しみいたむこと sorrow

あいしゅう【愛・愛】^ニ 気に入りのめかけ one's favorite mistress

あいしゅう【愛称】親しんで呼ぶ名前 a pet name

あいしゅう【愛唱】^ニ (名・他スル) 好んでよく歌うこと favorite singing 「一歌」

あいしゅう【愛・聞】(名・他スル) 詩歌などを好んでよく口ずさむこと favorite reading

あいじゅう【愛情】^ニ ① 他を愛する心、かわいしいと思う気持ち affection ② 異性を恋慕する心 love

あいじょう【愛嬢】アイジョウ かわいいたいせつな娘、まなむすめ、他人の娘にいう one's beloved daughter

あいじろし【合い印】[△] ① 他と紛れないようにつけておくしるし counter marks ② 敵と紛れないように味方の物の具につけるしるし friendly marks

あいじろし【合い標】[△]【服】裁縫で2枚の布を正しく縫い合わせるためにつける目じるし seamtracing

あいじん【愛人】愛する人、恋人 a sweetheart; a lover

アイス【ice】① 氷 ② 「アイスクリーム」の略 —— キャンデー [△] ice candy 棒状の氷菓子 a popsicle (氷); an ice lolly (英) —— クリーム

【ice cream】牛乳・卵の黄身・砂糖などを加えてつくった氷菓子 —— ショー 【ice show】アイススケートによるダンスまたは曲芸などの氷上ショー —— スマック

【ice smack】チョコレートなどで包んだ扁平または棒状のアイスクリーム —— ダンス 【ice dance】スケートをはいてする氷上でのダンス —— ボックス

【icebox】氷やドライアイスを使って冷やす携帯用冷蔵庫 —— ホッケ — 【ice hockey】【ス】氷上でスケートをはいて行うホッケ

あいず【合図】[△] (名・自スル) 前もって決めておいた方法で事を知らせること、またその知らせ、信号、サイン a signal; a sign

アイスキュロス【Aiskhylos】【人】(B.C. 525 ~ B.C. 456) 古代ギリシアの三大悲劇詩人の一人。アテナイ興隆期に活躍。壮大な宗教的作品を書く。代表作は「哀願する女たち」(ペルシア人) など

アイスバーン【Eisbahn】氷状に固まった雪面、スキーのアルペリ競技などには必要な条件で、自然にこの状態になっていない時は、足で踏み固めて氷状にする

アイスランド【Iceland】【地】大西洋北部、北極圏に近いアイスランド島と付近の小島からなる共和国。漁業が重要な産業のほか、農牧業も行われている。面積 10.3 万 km²。首都レイキヤビク

あいする【愛する】(他サ) ① かわいがら love ② 恋い慕う love; long for ③ 好む be fond of ④ たいせつにする cherish 図 あい (他サ)

あいせき【相席・合席】[△] 飲食店などで知らない人と同じテーブルの席にくること sharing a table with another

あいせき【哀惜】(名・他スル) 人の死を悲しみ惜しむこと condolence

あいせき【愛惜】(名・他スル) いとしみ惜しむこと、おしんてたいせつにすること fondness

あいせつ【哀切】たいそう哀れでもの悲しいこと pathos

アイセル【一湖】【地】オランダ北西部にある人工湖。ソイデル海を人工堤防で締め切ったもの。面積約 4,500 km² Lake IJssel

あいせん【祖先】[△] ⇒ たがせん

アイゼン【Eisen】鋼製またはジュラルミン製のスパイク状のすべり止め。氷雪の斜面の登降に着する

アイゼンハワー【Eisenhower, Dwight David】【人】(1890 ~ 1969) アメリカ合衆国第 34 代大統領。軍人・政治家。第二次世界大戦中、ヨーロッパ連合軍最高司令官として活躍

あいぜんみょうおう【愛染明王】[△]。【仏】愛欲のぼんごから生じるもめ事や迷いを浄化するほけ Raga 「願 an aspect」

あいそ【哀訴】(名・自スル) 悲しげに訴えること、哀

あいそ【愛想】人づきのよいこと amiability ② もてなし、娯(?) 楽 entertainment ③ したしみ、愛着心 affection ④ 飲食店の勘定 account (あいそ) —— が尽きる あきれていやになる be disgusted with —— づかし【一尽かし】いやにな

って見限ること lovelessness

あいそう【愛想】[△] ⇒ あいそ (愛想) 【hated】

あいそう【愛惜】愛することと惜むこと love and

あいそく【愛息】かわいがっているむすこ、他人の子息の敬称として用いる one's beloved son

アイソタイプ【isotype】international system of typographic picture 記号で標識・数量などを表そうとする試み、ドイツの哲学者オットー・ノイラートの創案によるもの

アイソトープ【isotope】【化】原子番号が等しい元素で原子量の異なるもの、同位元素、イソトープ

アイソポス【Aisopos】【人】⇒ イソップ

あいそん【愛孫】かわいがっているまご、他人のまごに對していう one's beloved grandchild

あいだ【間】[△] ① 物と物にはさまれた空間、すきま a gap ② べだたり an interval ③ 関係、あいだ

がら terms ④ くざらたひと続きの時間 an interval of time ⑤ によって、から、ゆえに、ほどに「致し候へ」 ⑥ 中間、まんなか the middle —— がら【一納】関係、つづきあい relation —— ぐい

【一食い】[△] (名・自スル) 食事のとき以外に物をたべること、かんじよく eating between meals

アイダ【Aida】【音】イタリアの作曲家ベルディのオペラ、敵国エジプトの將軍と相愛の仲になったエチオピア王女アイダの悲劇的最期をえがいたもので、荘重華麗な音楽と情景はグランドオペラの代表作といわれる

あいたい【相対】[△] (名・自スル) ① ふたりさし向かいで事をなすこと face to face ② 対等て事をなすこと [on a] par —— ずく 相手と相談の上ですること [doing] by mutual consent —— ばい

はい【一売買】売り手と買い手が一人対一人で価格などを決定する売買、どちらかが複数の場合は「競争売買」といわれる a negotiated transaction

あいたしき【愛他主義】他人の利益をはかる主義、利他主義 altruism → 利己主義

あいち【愛知】【地】中部地方南西部の県。工業・農業・水産業が盛ん、とくに名古屋市の繊維・食品・機械・陶磁器工業などには有名。日本ラインなどの観光地がある。面積約 5,139 km²。県庁所在地は名古屋市 —— ようすい【一用水】【地】木曾川上流から濃尾平野を貫流し、知多半島の先端に至る用水。発電・農業・工業・上水道など多目的に利用される。1961 (昭和 36) 年完成

あいちゃく【愛着】(名・自スル) 愛情にひかれて離れがたいこと、あいじゃく attachment

あいちょう【哀調】[△] ものがない調子 a mournful melody

あいつ【[△]彼・奴】(代) ① かれ、やつ that chap (fellow) ② あの物、あれ that; it

あいつく【相次ぐ】[△] (自五) あとからあとから続く succeed

あいつち【相・随】[△] ① ついで打ち合うこと ② 人の話に調子を含ませること chiming in with 「一を打つ」

あいつばんだいさん【会津磐梯山】[△] 【音】福島県会津地方に明治初期に伝えられたといわれる盆踊(ばうり)歌。ユメオモテな歌詞とともに全国的に知られる民謡

あいつばんち【会津盆地】[△] 【地】福島県西部にある盆地。南北約 30 km、東西約 10 km の断層盆地で、会津平(び)ともよばれ、古くから開けて各地に名所・道跡がある。中心都市は会津若松・喜多方(き)市

あいて【相手】 ① 物事をいっしょにする一方の人 a partner ② 争いなどで相対している一方 an opponent ③ 相対するもう一方の人、先方 the other party (side) ④ 【一取る】(他五) 争いの相手とする stand against

アイディア【idea】 ① 考え、思想 ② 思いつき、着想 ③ 【哲】観念、イデー——マン【idea man】新しい技術や方法、製品などの着想にすぐれている人

アイディアルズ【idealism】 ① 理想主義 ② 【哲】観念論、唯心論

アイディアル【ideal】(形動タ) 理想的

アイディーカード【ID—】 identification card の略、身分証明書 〔し、同門 a fellow-pupil〕

あいでし【相弟子】 〔し、同じ先生について学ぶ者どし〕

アイテム【item】 細目、品目

アイデンティティ【identity】 同一性、自己の存在証明、主体性などの意に用いる

アイデンティフィケーション【identification】 ① 同一であるとの確認 ② 身分証明

あいとう【哀悼】 〔名・他スル〕人の死を悲しむこと condolence

あいどく【愛読】(名・他スル) 好んで読むこと reading with pleasure

アイドリダ【idling】 ① 機械が空回りすること ② 停車中の自動車のエンジンをかけたままにしておくこと

アイドル【idol】 ① 偶像 ② 崇拜される人(物) ③ 人気者、あこがれの的

あいなかば・する【相半ばする】 〔自サ〕半半分になる、五分五分になる get even with 図あひなばす(自サ)

あいなし【形ク】(古) ① あいそがない、かわいがない ② つまらないう、おもしろくない ③ 役に立たない、むだである ④ むちゃである

あいなだのみ【あいな頼み】(古) あてにならない(むやみな)たのみ、そだのみ

あいなめ【^ハ鮎・魚女・^ハ鮎・並】【動】アイナメ科の海水魚、日本近海や朝鮮半島沿岸にすみ、鰭をおびた茶色で体長約30 cm、食用、あぶらめ a rock trout 〔言い方〕

あいなる【相成る】 〔自五〕「なる」のていねいな

あいにく【^ハ生憎】(副・形動タ) おりあしく、意地わるく、あやにく unfortunately 図「相憎」は誤り

アイヌ【Ainu】 北海道や樺太(サハリン)などに住む一種族、頭髮は黒く体毛が多い

あいのこ【^ハ合の子・^ハ間の子】 ① 混血児 a halfblood ② 種族の違ったものの混合 a crossbreed ③ どちらともつかないもの a neuter

あいのて【^ハ合の手】 ① 歌と歌との間に伴奏楽器で奏される音曲 an interlude ② 歌やおどりの調子に合わせて、間に入れる音やかけ声 ③ 会話や物ごとの進行の間にはさむ別なことば(物事)

あいのり【相乗り】 〔名・自スル〕① 車などについて乗ること riding together ② 2社以上のスポンサーがテレビなどの一つの番組を共同提供すること「一番組」

あいは【愛馬】 ① 馬をかわいがること the love of horses ② かわいがっている馬 one's favorite horse

あいはん【^ハ合判・^ハ合判】 ① →あいはん(合判) ② 連帯でおす印判 a joint seal

あいはん【^ハ相判・^ハ合判・^ハ合判】 ① ようのノートの大きさの紙の寸法、縦約21 cm、横約15 cm

アイバンク【eye bank】 自分の死後、角膜を他人への移植手術に提供する制度、またその機関、日本で

は1963(昭和38)年設立、目の銀行

アイバンホー【Ivanhoe】【文】イギリスの作家スコットの歴史小説、1819年の作、中世イングランドを舞台に活躍する青年騎士の物語で、ロビン・フッドやレベツカが登場、歴史小説の典型とされる

アイビー【ivy】(もとは「蔓」の意味)アメリカの有名大学の校風 ——カレッジ【ivy college】アメリカ東部の名門私立大学、エール・ハーバード・プリンストンなど

——リーグ【Ivy League】アメリカ東部名門私立8大学の総称 ——ルック【ivy look】アイビーリーグの学生が好むファッション、肩幅がせま

く三つボタンの背広、スボンも細めのスタイルなど

アイ・ビー・アール・ディー【IBRD】 International Bank for Reconstruction and Development の略、国際復興開発銀行、世界銀行

アイ・ビー・エム【IBM】 International Business Machine の略、アメリカにある世界最大の電子計算機メーカー、また同社の製品 「^ハでびひた肉」

あいびき【^ハ合・^ハ換】 ① 牛とぶたの肉を半分半分にま

あいびき【^ハ相引き・^ハ相引】 ① 互いに引きあうこと a draw ② 敵味方互いに引き退くこと a mutual withdrawal

あいびき【^ハ逢ひ引き・^ハ逢ひ引(き)・^ハ婿・^ハ婦】 ① (名・自スル) 男女が人目をしのんで会うこと、ランデブー a rendezvous 「^ハすふだ a check」

あいふ【^ハ合付】 ① 駅で手荷物を引き受けたときに渡

あいふ【^ハ愛・^ハ撫】(名・他スル) かわいがりいたわること、かわいがってなですること caressing

あいふく【^ハ合い服・^ハ合服・^ハ間服】 ① 春秋のころに着る洋服、あいき a spring (an autumn) wear

あいふだ【^ハ合い札・^ハ合札】 ① 後日の証拠に一枚のふだを半分に割って渡すもの、割符 a tally ② 金品を預かった証拠に、引き換えに渡すふだ a check

アイブロー【eyebrow】 まゆ毛

あいべつ【^ハ哀別】(名・自スル) ① 別れを悲しむこと the sorrow of parting ② 悲しい別れ a sad parting

あいべつりく【^ハ愛別離苦】【仏】八苦の一、親・兄弟・妻子など愛する人と生き別れ・死に別れる苦しみ

あいべや【^ハ相部屋】 ① 旅館やホテルなどで、同じ部屋に泊まること lodging in the same room

あいば【^ハ愛慕】(名・他スル) いっしょに慕うこと a love

あいばう【^ハ相棒】 ① かごとをいっしょにかつぐ相手 a partner ② ともに事を行う人、なかま a mate

アイボリー【ivory】 ① 象牙(ぼ) ② 象牙色 ③ 象牙色の厚くつやのある西洋紙で、名刺などに使う

あいま【^ハ合間】 ① あいだ、ひま an interval

あいまい【^ハ曖昧・^ハ曖昧】(名・形動タ) ① 物事のはっきりしないこと、あやふさ ambiguity →明瞭 ② 疑わしいこと、うしろぐらにこと doubtfulness

あいま・つ【^ハ相・^ハあつ】 〔自五〕互いに作用しあう、相互の力がいっしょになる correlate

あいまたがい【^ハ相身互い】 ① →互いに助け、助けられるべき身の上、同じ境遇にあること mutual sympathy

あいまち【^ハ相持ち】 ① 代わりあって物を持つこと ② いっしょに物を持つこと common possession ③ 費用を平等に負担すること an equal share ④ 互いに助けあうこと mutual help ⑤ 互いに優劣のないこと equality

あいやく【^ハ相役】 ① 同じ役目(を務める人)、同役、同僚 an associate 「^ハあいまち together」

あいやど【^ハ相宿】 ① 同じ宿に泊まること lodging

あいやう【^ハ愛用】(名・他スル) 好んで用いること、た

いせつに用いること、つかいつけ habitual use
あいよく【愛欲・愛・慈】①【仏】異性・肉親を愛する情 ②性愛の欲望 [love and] lust

アイライン [eye line] 化粧で、目を大きくはっきり見せるためのふちどり 「ure」喜怒一

あいらく【哀楽】悲しみと楽しみ grief and pleas-
あいらい【愛らしい】(形) かわいらしい lovable
 図 あいらし (形シク)

アイリス [iris] ①⇒こうさいしり ②【植】イチハツ科に属する多年草、観賞用として栽培され、6月下旬紫紅色の花を開く

アイルランド [Ireland] 【地】①イギリス諸島第2の島、アイルリッシュ海をへだてて東方のグレートブリテン島と対する。東北部のイギリス領北アイルランドと、アイルランド共和国に分かれる。面積8.2万 km² ②アイルランド島の南西部、同島の約6分の5を占める共和国、気候温暖で酪農中心の農牧業が盛ん。1949年独立。面積7.0万 km²。首都ダブリン。「エール」「アイル」とも呼ばれる

アイル [Eire] 【地】⇒アイルランド ②

あいにん【哀・憐】かわいそうに思うこと、あわれみ pity
あいにん【愛・憐】なまけ、いづくし kindness

あいろ【隘路】①せまくてわけい道 a narrow path ②なかなか越えられない困難な過程、支障、難関 a bottleneck 【ヨ、目、業】

アイ・ローション [eye lotion] 洗眼のためのローシ
アイロニー [irony] あてこすり、皮肉、反語、イロニ

アイロン [iron] ①衣服のしわを伸ばし、形を整えるのに用いる鉄製器具 ②髪のをちぢめる小型のこ

あいわ【哀話】哀れな物語、悲話 a sad story

アインシュタイン [Einstein, Albert] 【人】(1879~1955) アメリカの理論物理学者。1905年特殊相対性理論、16年一般相対性理論を発表。21年ノーベル物理学賞受賞。33年ナチスに追われてドイツからアメリカに亡命帰化。原爆製造の必要を時の大統領ルーズベルトに進言。著書「相対性原理講話」
アインスタイム [einsteinium] アクチノイドに属する放射性元素。1952年、アメリカの核爆実験のとき発見された。記号 Es

あう【合う】(自五) ①一つになる。いっしょになる join; come together ②かなう。適合する suit; fit ③よくとどる。調和する harmonize ④ひきあう。損にならない pay ⑤同じである。一致する agree ⑥(他の動詞の連用形につい)互いに同じ動作をする「語り」

あう【合う・遭う・遇う・逢う】(自五) ①対面する。会見する see; meet ②であう meet; encounter 「ひどい目に」 ③めぐりあう happen (chance) upon 図「合う」「あう」は「あつまりあう」「遭う」「遇う」は「偶然にあう」「逢う」は「道であう」——は別れの初め 会えば必ず別れるときがある。人生は無常のたとえ We meet only to part.

アウグスチヌス [Augustinus] 【人】(354~430) ローマ帝国末期のキリスト教(カトリック)の最も偉大な教父・哲学者。北アフリカに生まれた。キリスト教神学・倫理学・哲学の基礎を樹立。著書は「告白」「神国論」「浄福の生」「秩序論」など

アウグスツス [Augustus] 【人】(B.C. 63~A.D. 14) ローマの初代皇帝オクタヴィアヌス。カエサルの子。第二次三頭政治をし、アクチウムの海戦にアントニウスを撃破後、帝位につき、アウグスツスの尊号をうけた。(以後歴代皇帝はこの称号を唱えた) また、学芸の黄金時代を現出した

アウグスブルクのわき【一の和議】【史】1555年アウグスブルクでドイツ皇帝(神聖ローマ帝国)カール5世と新教徒の間に結ばれた宗教和約 Augsburg Religious Peace

アウトクルキー [Autarkie] 【経】自給自足

アウト [out] ①外②【ス】テニス・卓球などで、たまが線の外に出ること ③【ス】野球で、打者・走者がその権利を失うこと ⇒セーフ ④【ス】ゴルフで「アウトコース」⑤の略 — **カーブ** [outcurve] 【ス】野球で、投球されたボールが打者の近くで急に外側にまがること ⇒インカーブ — **コース** [outcourse] 【ス】①野球で、打者に遠い方を通るボールの道 ②陸上競技で、外側の走路 ③ゴルフで、18ホールのうち前半の9ホール。アウト the outgoing course ⇒イン — **コーナー** [outcorner] 【ス】野球で、本塁のベースの打者に遠い側のすみ。外角 ⇒インコーナー — **サイダー** [outsider] ①局外者、専門的知識または素養のない人 ②【経】カルテル・トラストまたは価格協定などに加盟していない同業者 ③法外組合 — **サイド** [outside] ①外側、外面 ⇒インサイド — **シュート** [outshoot] 【ス】野球で、打者に対して自然に外側へそれる直球 ⇒インシュート — **フォーカス** [out of focus] 焦点(点)がはずれてぼやけた撮影、ピンぼけ — **プット** [output] ①【経】産出(量)、生産高 ②電気の出力(端子)。コンピュータの情報を外部に取り出すこと、また取り出された情報(⇒インプット) — **ボクシング** [out boxing] 【ス】相手から離れて攻撃するボクシングの作戦 — **ライン** [outline] ①外郭線、輪廓 ②あらまし、こうがい — **ロー** [outlaw] ①法律上の恩典と保護を奪われた者 ②社会からけしめ出たならず者、無法者

アウトドア・スポーツ [outdoor sports] 【ス】屋外スポーツのこと、野球、サッカー、陸上競技など ⇒インドアスポーツ

アウトバーン [Autobahn] 世界の高速道路の模範となったドイツの自動車道路。1935年にフランクフルトとダルムシュタット間が完成した

アウフヘーベン [Aufheben] (名・他スル)【哲】止揚(止), 揚棄

あうん【阿・阿・阿・阿・阿】①【仏】初めと終わり alpha and omega ②【仏】寺院の山門の両側にある仁王(仁王)や狛犬(狛犬)などが、一方は口を開き(阿)、一方は口を閉じ(吽)ているさま ③出す息と吸う息 inspiration and expiration ④の呼吸相接の仕切りなどで、両方が同時に立ち上るために合わせる呼吸 simultaneous breath

あえく【あえく】(形動ナリ)【古】いかにも弱々しいさま、繊細であるさま

あえ・ぐ【あえ・ぐ】(自五) ①苦しうにせわしく息をする。息をきらす pant ②苦しむ suffer

あえず【あえず】(連語) 完全にはできない(で)、しきれない(で)「防ぎ」 ②少しも、全く at all

あえて【あえて】(動) ①いって、無理に dare

あえな・い【あえな・い】(形) ①いはいない、たみにならない pitiful 「一最期」 図 あへない (形ク)

あえもの【あえもの】(名) 野菜・貝・魚を酢・みそ・ごまなどでまぜた料理 a salad; a mixed dish

あえる【あえる・あえる】(他下一)食物にみそ・酢・ごまなどをまぜ合わせる make a salad 図 あへ(他二)

アエロトラン [aérottrain] 空気を下方に噴出して浮上し、プロペラやジェットで推進して走る高速列車

あえん【亜鉛】【理】青白色の光沢ある重い金属で、

電池の陰極、鉄器の亜鉛の引き、黄銅その他の合金に用いられる。記号 Zn zinc —か【一華】??

【化】酸化亜鉛の白色無晶形粉末。水にとけぬ。白色顔料・散布剤などに用いる bloom; zinc flowers —めっきこうはん【一鍍・金鍍板】

→トタン

あお【青】?? (接頭) ① 青色をしたさま「うなばら」 ② 物事の未熟なこと。官位・身分の低いこと adj. green 「二才」「道心」

あお【青】?? ① 七色の一。三原色の一。晴れた空の色 blue ② 草の葉の色。みどり色 green ③ 馬の毛の色。つやつやした黒色 bluish dark —は藍(あ)より出で藍より青し【荀子】弟子が師よりも、子が親よりもすぐれていること

あおあ(と)【青(と)】?? (副・自スル) ① たいそう青いさま vividly green ② 一面に青く見えるさま covered with verdure

あおあらし【青(風)】?? 青葉のころに吹く風。せいらん wind through verdure

あおい【青(葉)】?? ① 【植】アオイ科の植物の総称。ふたばあおい・たちあおい・ぞにあおいなど。いずれも庭園に栽培され、「ふよう」に似た美花を開く a hollyhock ② かもあいに形どった紋所(む)の名。徳川氏の紋で、転じて江戸幕府の表徴とされた the aoi crest —まつり【一祭り・一祭】京都の賀茂神社の祭り。かもあいの葉を社前に飾り、また牛車(ぎ)のすだれや供の職員の衣冠につけたこの名がある。昔は4月中の酉(う)の日に行われたが、現在は15日に行われる

あおい【青(い)】?? (形) ① 青色である。緑の場合にもいう blue ② 未熟である unripe 図をあし(形ク)

あおいきいき【青息吐息】?? ひじょうに困って嘆くこと(状態) gasps and sighs

あおとり【青(い)鳥】?? ① 【文】メーテルリンクの童話劇。チルチルとミチルの兄妹が夢の中で幸福のしるしである青い鳥をたずねて歩く話。幸福は日常生活の中にあることを暗示している。代表的童話 ② 幸福 happiness

あおいろ【青色】?? ① 晴れた空や澄んだ水のような色。うすいあい色 blue ② →きくじん —しんこく【一申告】【法】青色申告用紙によって提出する納税申告。おもに事業所得に適用。繰り越し欠損を損金に算入することが認められ、税務署がかってに更正決定できないという特徴がある a blue return

あおうなばら【青海原】?? 青々として広い海。大海原 the blue expanse of water; the ocean

あおうみ【青(海)】?? ① 真珠色をした。らてんの材料にする貝。あわびなど ② 貝がらの真珠色をした部分をみかいたもの a naacre

あおめ【青梅】?? まだ未熟で青い梅の実 an unripe plum

あおえ【青(絵)】?? ① 陶磁器にかいたあい色の絵 blue pattern ② 呉須焼(き) arborite porcelain

あおが【青(貝)】?? ① 真珠色をした。らてんの材料にする貝。あわびなど ② 貝がらの真珠色をした部分をみかいたもの a naacre

あおがえる【青(蛙)】?? (動) アオガエル科のかえるの総称。背面緑色、腹部は白色 a green frog

あおがきやま【青垣山】?? かきねのようにまわりを取りまいてる青い山々 surrounding green hills

あおかび【青(菌)】?? 【植】子囊(こ)菌類(き)の一種。黒あがった緑色で、も* 其他の食物に生じる green mold

あおがれびょう【青枯れ病】?? 【農】トマトなど

す・うりなどの野菜の病気。細菌が根や茎などの傷口から侵入。急性で青いままおれる wilt disease

あおき【青木】?? 【植】ミズキ科の常緑低木。山野に自生し、春に紫がかった緑色小粒の花を開き、紅色の実を結ぶ。樹高1~3m a gold-leaf plant

あおきこんよう【青木昆陽】?? 【人】(1698~1769) 江戸中期の蘭(らん)学者。初めてさつまいを試作。栽培法を普及。甘藷(かんしょ)先生といわれた。著書<蕃書考>

あおきしげる【青木紫】?? 【人】(1882~1911) 洋画家。福岡の生れ。明治画壇の鬼才。その画風はロマン主義的。代表作<海の幸>(天平時代)

あおぎり【青(桐)】?? 【植】アオギリ科の落葉喬木。木の皮は緑色で葉は大きく、夏、淡黄色の小花をつける a sultan's parasol

あおきん【青金】?? ① 金と鉄との合金。装身具に用いる ② 金と銀との合金。粉末にして蒔絵(め)に用いる

あお・く【仰(く)】?? (他五) ① 上を向く。あおむく look up ② たつとぶ。うやまう revere ③ 請う ask ④ 飲む drink 仰いで天に懐(め)じず、情(じ)して地に忤(む)じず 少しも不正がないから天地に對しても全く恥(は)じるところがない 公明正大 I have no sin on my conscience.

あお・く【扇(く)】?? (他五) ① (うちわ・扇など) 風を起す fan ② 扇動する。おだてる instigate

あおくさ【青草】?? 青々とした草 green grass

あおくさ・い【青臭(い)】?? (形) ① 青草のようなにおいがする grassy-smelling ② 未熟らしい unskilled 図をあく(形ク)

あおくちば【青朽ち葉・青朽葉】?? ① 青みを帯びた朽ち葉色 bluish tawny ② かさねの色目。表はもえぎまたは青で、裏は黄

あおくろ・い【青黒(い)・黧(い)】?? (形) 青みを帯びた黒色の pale and dark 図をあく(形ク)

あおさ【石(草)】?? 【植】浅い海の岩石につく緑そう類。平たくて緑色。食用 sea lettuce

アオザイ【ア(ao dai)】ベトナム女性の伝統衣装

あおさぎ【青(薺)】?? (動) さぎの一種。大形で、背は青みを帯びた黄色 a common heron

あおさむらい【青侍】?? 六位のさむらい。年の若い。ものなれなさいむらい

あおさ・める【青さめる】?? (自下一) ① 青くなる become blue ② 顔色が悪くなる turn pale 図をあさむ(自下二)

あおしま【青島】?? 【地】宮崎市南部の海岸に接する島で観光地として有名。日南(に)海岸公園定公園に属する。横樹樹(よこ)などの亜熱帯植物が密生。周囲約1.2km

あおじゃしん【青写真】?? 複写するための簡単な写真法の種類。薬品を使って設計図・表・文字などを青地に白く写してあらわしたものを a blueprint

あおじろ・い【青白(い)・蒼白(い)】?? (形) ① 青みを帯びて白い whitish blue ② 顔が青ざめて血色が悪い pale 図をあじろ(形ク)

あおすじ【青筋】?? ① 青いすじ a blue stripe ② 皮膚の上から見える静脈 a blue vein —を立てる 怒る。かんしゃくを起す turn purple with rage [blue sky]

あおぞら【青空】?? よく晴れた青い空。晴天 the

あおた【青田】?? ① 稲の青々とした田 green rice-fields ② 穂の出る前の稲田 unripe ricefields

—がい【一買(い)】→あおたがり —がり【一刈